

米国西海岸海外研修旅行に参加して

Participated to a training tour in the West Coast land of America

このたび、“(社)日本技術士会北海道支部 北海道技術士センター 設立 30 周年記念 米国西海岸海外研修旅行”((株)構研エンジニアリング 大島紀房団長以下 24 名) に参加する機会を得ましたので、視察内容について簡単に報告します。

今回の研修は、最近注目されている地震災害の原因(断層)、対策(構造物の耐震補強)、危機管理体制について各関係機関(連邦・州・郡・市)ごとに訪問し米国西海岸における地震対策の現状を視察してきました。また、コーディネーターである野口尚彦氏(札幌西高OBで現在カリフォルニアで“APPLIED EARTH SCIENCES, INC”という地質関係の会社を経営。)の精力的な配慮により密度の濃い研修となり、通常では視察できないような公的機関や研究所または、米国応用地質学会の会長・副会長などによる現地(断層)説明など、充実した内容の研修でした。

於本 嘉 *



1. 調査日程と訪問地

都市名	日時	視察場所・現地説明者	内容
サンフランシスコ	10/22 (火)	ワイロト市内	ワイロト断層(Field Trip)
		スライトショー(夕食をとりながら)	——
	10/23 (水)	カリフォルニア州政府・交通局(Caltrans)	カリフォルニア州全体の耐震設計基準の現状 既設構造物の耐震補強計画・実施
		鉱山地質局(CDMG)	地震観測網・ハザードマップ等
		OES	州レベルの危機管理システム・組織体制 行動事例(マップレビュー、ワークショップ)
	10/24 (木)	U. C. Berkeley校	ワイロト断層による被害視察
		カリフォルニア州政府・交通局(Caltrans)	サイプレスリーウェイ工事現場視察
		サンフランシスコ市土木部	市の危機管理・組織体制・耐震設計基準 耐震補強工事中の市役所見学
	10/25 (金)	U. C. Berkeley校	工学部地震工学科
		FEMA(連邦危機管理庁)	キャンセル
U. S. G. S(米国地質調査所)		世界第一の地質調査所 研究結果の活用方法等	
ラスベガス	10/26 (土)	米国応用地質学会ラスベガス支部	地下水の揚水過剰による地盤沈下・亀裂
		クラークカントリー建築部	ピラミットホテル(Luxor)の斜めエレベーター等
	10/27 (日)	グランドキャニオン国立公園見学	グランドキャニオン積雪のため、断念。 バス故障・台湾人観光客のバスに!
ロサンゼルス	10/28 (月)	米国応用地質学会ロス支部	ロサンゼルス近郊の地形・地質構造を探る。
		カリフォルニア工科大学	地震情報伝達システム(Cube System)
	10/29 (火)	Ventura County(郡)政府	危機管理システムの視察
		カリフォルニア州政府・交通局(Caltrans)	フリーウェイ工事現場の視察

*) 道路部 主任技師 Yoshimi OMOTO



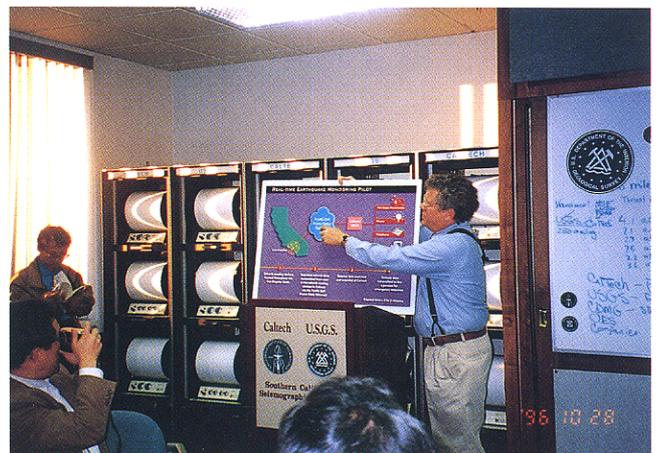
ピノール岬にて



耐震補強中のサンフランシスコ市役所



フーバーダム



カリフォルニア工科大学
(Thomas heaton 教授)

2. 研修を終えて

米国西海岸の研修を終えて、一番印象に残ったのは建築物の耐震補強でした。古い歴史のある建築物を外見上はそのままに、基礎および構造自体を根本的に補強し大切に管理していることでした。また、これらの耐震補強は新しく立て替えるよりもお金がかかるため、市民が認めてはじめて着工出来、多くの市民による寄付金で工事を行っているということでした。日本では考えられないほどオープンで古い物を大切にする気持ちに、日本との違いを痛感しました。

また、カリフォルニア工科大学で地震情報伝達システム (Cube System : Caltech・U. S. G. S・C. D. M. G・O. E. S 等の官民一体型の情報システム) を見学したときの現地説明者である Thomas Heaton 教授がこのように言っていました。『日本にも大変優れた情報伝達システムが各機関で開発され実用化されている。日本は金持ちだから縦のつながりだけで十分やっつけていけるが、我々 (米国)、特にカリフォルニア州は貧しいため、各機関が協力しあい横のつながりを広げ一つのシステムを開発しなければならなかった。』“なるほど?” と心の片隅に訴えるような意見でしたが日本でも将来、横のつながりを強化し地震大国の名に恥じぬよう、組織・体制を充実させなければならぬと痛感しました。